

大地の恵み

blessing of the earth

水土里の郷・仙北平野

vol.14

H25.3

わくわく探訪 — 土地改良施設巡り —

- 2012 語り部交流会 in あきた ～農業農村から学ぶ自然との『共生』の精神～
- 「中山間ふるさと・水と土フォーラム」 ～伝えよう・ふるさと秋田と農村の魅力～
- 伝統芸能（紹介） 鳥海山に舞う「本海獅子舞番楽」
- 水と土の再生・創造 ～新たな土地改良長期計画について～
- データで見る食料自給率「いちばん身近な『食べもの』の話」
- 平成 24 年度活動状況報告



あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議

郷土の農地や疏水の開拓に尽力した先人たち。
番楽などの農村伝統文化。いにしへの旅人たち
の想い。これらを「語り」などにより再現し、
人と自然との「共生」の精神に想いを巡らせ、
これからの農業農村について考えます。

農・業 農・村 から 学・ぶ 自・然 と の 『 共・生 』 の 精・神 ^{こころ}

2012 語り部交流会 inあきた



小滝番楽



象潟九十九島



上郷温水路群



齋藤宇一郎翁の紙芝居

▶日時:平成24年10月20日(土) 13:00~16:15

▶会場:にかほ市総合福祉交流センター

主 催:秋田県

共 催:あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議

協 力:平野啓子(「語り部交流会」企画・開催指導)

後 援:農林水産省東北農政局、にかほ市、にかほ市教育委員会
秋田県土地改良事業団体連合会



2012 語り部交流会inあきた

「農業農村から学ぶ

自然との『共生』の精神」

10月20日(土)、秋田県にかほ市で「2012 語り部交流会inあきた」(主催:秋田県、共催:あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議、協力:平野啓子、農林水産省)が開催され、

県内外から約260名が参加した。

この語り部交流会は、「語り部・かたりすと」として全国を舞台に活躍している元NHKキャスターの平野啓子氏と農林水産省、秋田県が協同により、昨年からの全国に先駆けて実施している催しで、身近にある農業・

農村に関する歴史や文化、それらを語り伝えることで、昔から受け継がれてきた農村に宿る精神を再認識し、将来に繋げていくというものである。地球人会議もその趣旨に賛同し、昨年に引き続き、共催団体として交流会の開催に協力した。

鳥海山麓一帯に宿る農業農村との「共生」の精神を浮かび上がらせた。

続いて、語り部の平野啓子さん、「おくのほそ道」の語りや、地元の平沢小学校児童と一緒に齋藤宇一郎の功績を紹介する紙芝居を朗読した。思いの込められた情緒溢れる平野さんの語り、会場から大きな拍手がわき起こり、また、平沢小学校4年生5人による上手な朗読には、語り部の平野さんも大変感激していた。

後半の「語り部フォーラム」では、にかほ市の横山忠長市長と鳥海山小滝番楽保存会の吉川栄一会長が、自然との共生を背景とした地域の取組や活動を紹介したほか、「農業農村から学ぶ自然との『共生』の精神」をテーマに意見交換が行われた。

最後に、鳥海山小滝番楽保存会の皆さんが、小滝番楽を3演目披露し、会場の参加者が一体となった交流会は、盛会のうちに終了した。



..... プログラム

- ① 講演 **山紫水明と文化の郷鳥海 ～自然との共生の精神＝畏敬と感謝～**
秋田県山本地域振興局長 **菅原徳蔵氏**
- ② 語り **「語り」を通して知る自然との『共生』の精神**
語り部・かたりすと **平野啓子氏**
※「おくのほそ道」の語りや、小学生と一緒に「齋藤宇一郎翁」の紙芝居を朗読します
- ③ 語りフォーラム **農業農村から学ぶ自然との共生の精神**
にかほ市長 **横山忠長氏**
鳥海山小滝番楽保存会会長 **吉川栄一氏**
平野啓子氏、菅原徳蔵氏
- ④ 地域伝統文化の鑑賞 **小滝番楽**





●平野 氏

始めに、農林水産省の林田様に本日の語り部交流会での語りを聞かれ、ご感想も含めて、農業農村についてのお話をいただければと思います。

●林田 氏

「自然との共生」というテーマで上郷温水路、齋藤宇一郎の乾田馬耕と耕地整理や、ホームページでも紹介されている象潟の自然の美しさ、伝統文化である番楽など、非常に良

くまとまって、しかも沢山の幅広いテーマで話が進んでいる素晴らしいコンセプトだと感じました。
特に齋藤宇一郎については乾田馬耕を普及し定着させるという功績で非常に知られていると私も伺っていたのですが、子どもさんの紙芝居を見て、初めて知った面もありまし

た。新潟と同じような排水不良の土地で農家の方々が苦労してきたものを、排水を改善することとで良くなったというお話です。農家の人自身が、水田というのは排水が悪いものだという所から乗り越えなければいけなかったという齋藤宇一郎さんのお話を伺って、改めてそういうものだと感じましたし、それを説得して行ったその忍耐と努力を強く感じた次第であります。
最後に1つだけ申し上げますが、伝統文化のお話がありました。今日のテーマに完全に合っていると思います。しかも話の中に改めて私が気づかなかったところもありまして、農家の数が減っている話では、そこに住んではいるが非農家になっ

●平野 氏
貴重なご意見、ご感想ありがとうございました。
一言で言っても、耕地整理は大変根気のいる仕事で昔からの努力や苦労があつて、今の農業や農村に活かされている感じがします。農業や農村が、私達の毎日頂いているお米や野菜を生産するだけじゃなく、様々な機能や効果を持っています。また、それは私たちの子どもの為にも大事にして行かないといけない。そのためにどうしていくか、・・という事になるのですが、次は

「自然との共生の精神」のテーマを更に詳しく伺っていきたいと思います。
菅原様、先程は本当に素晴らしいご説明をありがとうございました。菅原様は秋田県のホームページに「美しき水の郷あきた」を作られたと聞いております。その中で秋田の農業農村が受け継いできた文化や風土、歴史や伝統を数多くご紹介され、全国的にも高く評価されているという事ですが、本日のテーマで「自然との共生」という関連からこの取り組みについてご紹介いただければと思います。

語り部フォーラム

●コーディネーター パネラー

平野啓子（語り部・かたりすと）
横山忠長（にかほ市長）

吉川栄一（鳥海山小滝番楽保存会会長）
菅原徳蔵（秋田県山本地域振興局長）
林田直樹（農林水産省農村振興局次長）



く。そこに住んでいる方々が減っているわけではないのに農家の数は減っていく。それを乗り越えて行くために様々な取り組みを行って、非農家になった方も一緒に地域の水路維持や、草刈りを行っていく事で政策を進めて来たのですが、お話を聞いて、はっと気づいたのです。そんな簡単な事ではないと感じました。職業は消防署に勤めたり、会社勤めたりしたことで非農家になっていく。伝統文化を守るために練習をしようと思っても練習時間の都合がつかない。そういう問題が伝統文化を失わせていく危険があるというお話を伺って、我々が考えているより深刻だと改めて感じました。





2012語り部交流会 in あきた

～農業農村から学ぶ自然との「共生」の精神～



●菅原 氏

「美しき水の郷あきた」のホームページを作ったのは2000年です。20世紀の反省に立って、21世紀はどうあるべきかというページにしたかったという事です。

20世紀は近代化の中で日本人が捨てた宝物が沢山あったとい

う事で、何とか残したいと思っていた歴史・文化が、どんどん捨てられて行った事例も少なくなかったと思います。自然に対しても自然を残そうとする余り、人間や文化を排除したりと、そんな不幸な出来事も少なくなかったと思います。私の個人的な「自然と人間と文化」の活動、

その意味は自然だけが大事なわけではなくて、自然と向き合って生きてきた人間も大事だし、そこから生まれてきた共生の文化も大事だと、本当に自然を守ろうとすれば、自然と人間と文化をワンセットで残すべきだというのが、私の考え方でありました。その時、「田園空間博物館構想」が出てきて、農水省事業で自然と人間と文化の総合博物館的なものが出来ました。そうやって生きてきた人間も大切だし、共生の文化も大切というのが私の考え方と非常に共感しまして、コンセプトにしてホームページを作ったということです。阿仁のマタギ文化や、羽後の案山子の文化など、大凡農業には関係のない分野まで含め携わってきました。

●平野 氏

一見関係ないようですが、本当は繋がっているのだと思います。私もそのホームページ楽しみに拝見したいと思っています。「美しき水の郷あきた」というタイトルです。

次に、横山市長様にお伺いしたいと思います。にかほ市と松島町とは奥の細道、紅蓮寺の繋がり、日本初の夫婦町となられ、今年は銀婚式を迎えられたとお聞きしました。奥の細道にも代表される両市の町の自然景観の

豊かさ、美しさといった事が夫婦町としての連携にどのように生かされているのか。また、今後どのように生かしていくのかをお聞かせ頂ければと思います。

●横山 氏

夫婦町のきっかけは、旧象潟町民有志の皆さんが、松島と象潟の歴史の繋がりに感動致しまして「比翼塚」これは小太郎と紅蓮尼を奉る塚でございますが、ここに合歡の木を植えた事などが背景にあつて民間レベルの交流が始まりました。その後、様々な交流を通して、それぞれの町の活性化を図ろうと夫婦町の契りを結んだわけであります。これが平成の大合併で象潟町から、にかほ市に引き継がれたところでございます。

先程、平野さんから象潟と松島の景色に並び賞されていた紅蓮尼のお話がございましたが、なんとと言っても小太郎と紅蓮尼の物語が背景にあります。昔、象潟の商人森隼人（もりはやと）が、四国三十三番観音巡りの旅に出ます。また時を同じく、松島の蜂谷掃部（はちやかもん）が旅に出るわけですが、この二人が偶然一緒になります。そして気心が合いまして二人で仲良くその目的を達成するわけですが、目的を達成すると別れるしかないわけです。この関係を終



わりたくないという事で、掃部（かもん）の息子小太郎に、隼人（はやと）の娘タニを嫁がせ夫婦にするという約束で別れるわけでございます。タニが小太郎に嫁ぐために松島に行った時には、小太郎は病気で亡くなっておりました。しかし、タニは夫となるべき小太郎を弔いながら、義理の舅・姑に尽くしたいということ、松島に滞在して十数年間尽くしながら、舅・姑が亡くなった後には瑞巖寺の仏門に入って尼さんになるのです。そして紅蓮尼（こうれんに）という名前を頂いて松島で生涯を暮らすわけです。こうした行いが、日本女性の鏡であるということで、松島の皆さんが比翼塚を建て毎年供養していることが背景にあつて、夫婦町の定説となったわけであります。その後





も交流を進めて参りましたが、私はこれから一つやりたいと思っている事は、今回の震災を受けて、すぐに支援体制を取ろうとしましたが、互いに連絡が取れるまでかなりの時間がかかりました。災害時には早期の支援体制が取れるように年1回は職員レベルの話し合いをして色々な情報を共有し、万一の場合に備えたいと、まずはそういう体制を作りたいと考えております。「少し短めに」とのボードが見えたので、ここで終わりたいと思います。(笑)

●平野 氏

大変貴重なお話ありがとうございました。吉川様は、温水路の役割や保全について、地元の小学校で子ども達に授業をされているとお聞きしています。子ども達の様子や、伝える意義などを聞かせただけですか。

●吉川 氏

私が住んでいる地域「上郷」という所ですが、上郷小学校4年生の社会の授業で、地域の発展に尽くした人々ということで、温水路について話をしています。

子ども達は大変いろんな事に興味があつて、質問責めに合いました。当然出てくるのは温水路を作ろうとした人は誰ですか？どんな道具で作ったのですか？そんな話が出てくるのですが、中には、一段作るのに何日かかりましたか？とか、温水路という名前を付けたのは誰ですか？と言った質問もありました。温水路の話をしましたが、最初から温水路という名称ではなかったのです。「温流水路」という名称で設計されて、後に「温水路」となったのですが、なかなか回答に苦労します。工事の時、魚はどこに行きましたか？これは私も困りました(笑)。

子ども達からは、いろんな角度から質問責めでした。こちらで話をすると、目が輝いていま



す。私も楽しく授業をさせていたのですが、よくよく話を聞いてみると、自分の家の前に流れている小さな堰の水が、この温水路から、あの山奥から流れてきているんだと、子ども達から見れば不思議な事なんです。我々はそれが当たり前に感じているのですが、あの鳥海山の上からという感じで不思議に捉えていました。そして約2時間くらいかけて毎年1回、山の水源の方に水神様を拝みながら水路の整備、そういう話をしますと、自分のおいしいちゃん、お父さんがそういう大切な水を守るために仕事をしているんだなあ、会社に行っているだけじゃないんだと理解してくれまして、もっともつと水について、

温水路について知りたいという意見がありました。

小学生に授業をしたのは3回程でしたが、その後も、農地・水・環境保全活動の中で地域の子も達だけでなく、その親も含めて温水路について勉強会をしております。地域住民の30代・40代位までの人達は、温水路そのものは見たことがあるのですが、何故温水路ができたのか、その歴史はまったくといっていいほど知りません。ですからその人達にその話をすると、今まで本当に知らなかった、そういう事を子ども達と一緒に勉強していきたいという親御さんが多く見られました。これから、こういう機会を持つて、先人の尽くした功績を大事にして、みんなで語り合っていけたらと考えているところです。

●平野 氏

大変素晴らしい授業をされていますし、子ども達の生き生きとした様子が伝わってくるようです。時間も押して来ているので、最後にバネラーの皆様、この美しい「にかほ」の今後の地域づくりという観点から、「自然との共生」というテーマの持つ意味について、皆様の思いを一言ずつお話をいただければと思います。

●横山 氏

前段で鳥海山からの恵みの一番は豊かな水であると申し上げました。この水資源は根底から私達の生活を支えておりますので、引水の水質保全と水量の維持は非常に大切だと思っております。

にかほ市では全国的にも例は少ないと思いますが、平成19年4月に「にかほ市水道水源保護条例」を作りました。市内での湧水は水道の水源だけでなく、様々な面で私達の生活を支えているわけであります。こうした湧水群が各種の開発によつて汚染されたり、あるいは水量に影響を与える事がないように、市や市民、事業者の役割を定めた条例です。そして、水道水源保護地域においては各種の開発を行う場合、事前に(補償を添付して)開発内容を市に届ける義務があります。

例えばゴルフ場あるいは産業廃棄物の最終処分場、大規模な畜産事業所、土砂採集開発によつて水質の汚染や枯渇をもたらす怖れのある開発については、指導、助言あるいは監督をすることができるという内容の条例です。これに違反すれば最終的には裁判になろうかと思いますが、行政として最小限指導はしていかなければならないと思います。ですから湧水の水質



を守る事もそうですが、自然と共生するためには、必要な場合には新たな条例の制定を視野に入れながら市民の意識高揚に努めて参りたいと思います。

●平野 氏

大変貴重なコメントありがとうございます。次に、吉川様お願いいたします。

●吉川 氏

この地域は、鳥海山の大自然の恵みを受けて生活が成り立っていることは皆さんも同感だと思えます。先程、菅原局長からもお話がありましたが、鳥海の神に無病息災を願ひ、1年の豊作を祈願し、大自然の恵みを願う。1年の収穫は神様の恵みではないかと思う。伝統芸能の奉



納は神様への感謝の気持ちを表したもののじゃないか、畏敬と感謝という言葉にありました。

先程も話しましたが、集落機能が激変しております。農村という色彩が色あせていく。その中で農村集落として継承してきた文化も失われて行く。それが、私が今一番心配している所です。農村に限らず自ら住む生活環境を汚染、破壊しているのは唯一人間という動物だけだと私は思います。自分を含めてですが、人間はいつかの時代に自分が動物であるという事を忘れ、長い間に遣伝子の中から動物であるという自覚要素が消え去ろうとしているのではないか。今叫ばれている大気汚染や環境破壊、全てがこの要素の欠如から来る。私は間違いないと思います。アメリカの原住民にナバホ族がいるのですが、そこに伝わる言葉に「地球環境は先祖から受け継いだ物ではなく、子孫から借りているものである」との言い伝えがあります。その事をよく踏まえて、まだ汚染や破壊が押し寄せていない美しい鳥海山麓を守って、子孫に残していかなければと考えています。

以前土地改良区の職員で基盤整備に積極的に関わってきた私ですが、私が子どもの頃、山あいは小さな田んぼで、ちよろ

ちよると川が流れていました。空高く晴れ上がった秋の空に銀色の稲穂が輝いている、そういう光景がありました。刈り取られて杭にかけられた稲穂が、曲りくねった田んぼの畦に立ち並んでいて、その天辺に赤とんぼが気持よさそうに日向ぼっこして：こんな閑かな光景を記憶している世代がもう居なくなるのかな？そう思うと大変残念ですが、そんな事がないようにしていきたいと思います。

●平野 氏

ありがとうございます。菅原様からも願ひします。

●菅原 氏

この地域は鳥海山に生かされている地域だと思います。鳥海山と共生なしに持続的な発展はあり得ない。ただ、共生というのは言葉では簡単ですが、非常に難しい。先程言ったように噴火をしたり、大地震があつたり、当然津波もあります。その災いを乗り越えて行かなければならない。災いを乗り越えてはじめて共生が成り立つわけです。災いというのは精神的な柱がなければならぬ。やはりこの地域は鳥海山信仰、それが柱だと思う。それを芸能で表現したのが獅子舞・番楽だと思います。その獅子舞・番楽も一人では乗り

越えられませんでした。共同の力を結集して乗り越えてきたということですから伝統文化を守るという事は、自然と共生する為には不可欠なものであるし、災害を乗り越えるためにも不可欠なものである。国民文化祭に向けて、その点をアピールして頂ければと思っています。

●平野 氏

ありがとうございます。パネラーの方々から一言ずついただきましたが、林田様は、実は大変お忙しい中を東京からお越し下さいました。そして今日の「自然との共生」というテーマに限らず、国としてその農村振興・農業政策をどうしようかと考えている真つ只中にいる方でございます。なかなかお話を聞くチャンスもないと思いますので、ここで林田様より、今日のご感想を含めて、にかほ地域へのアドバイス等を中心に農村をどうしていくか。自然との共生をどうしていくか。今、感じている事についてお話しできればと思います。

●林田 氏

大きな課題をいただいたのですが、時間も押しているようなので短くしたいと思います。横山市長さん、吉川会長さん、菅原局長さんのお話を伺っている

うえでは、秋田県、にかほ地域については全然心配いらないと思います。県・市・団体・地域が、それぞれの役割分担を認識され、同じ方向に向かって課題意識、問題意識を持ってやっておられるので、この地域については問題がないと確信致しました。この取り組みを全国の地域に広げていかなければならないというのが私の仕事だと改めて感じたところです。

最後に一つだけ活動と違う話を申し上げたいのですが、私は、農政全般をやっております。そんな中で新聞を見ますと国際交渉、関税交渉、中国と日本のE





PA、TPP参加など、日本が
あちこちの食料を作っている国
から農産物を買わされそうに
なっている事が、皆さんに伝
わっているのではないかと思
います。私はこういう仕事、土
地改良の仕事をやってますが、
数年前の4年間位、関税交渉の
担当になりました色々な国と交

渉をしました。米の関税を下げ
てくれとか、砂糖、蜂蜜の関税
を下げてくれとか、そういう交
渉をずっとやっていました。
今年の夏、6月以降農産物の
価格の高騰を聞いていて思うの
ですが、今年はアメリカが異常
な干ばつに遭い、その結果とし
て大豆・トウモロコシ・小麦が

過去の市場の最高値を付けてお
ります。10年前の値段と比べま
すと、今は2・7倍になってい
ます。10年前の大豆・砂糖・ト
ウモロコシ・米、合わせて平均
2・7倍に上がっています。日
本はまだそれぐらいでは物が高
くて買えないという話を聞きま
せん。日本は豊かですが、アフ
リカ、アジアなどの貧しい人達
は3倍になった物は高く買って
ない。だから私は、交渉してい
る時に外国の人に言うのですが、
日本は買っています。米やトウ
モロコシ、大豆だって買ってい
ます。これだけの農地が残って
いて、日本には1800mmの雨
が降ります。だから我々は今あ
る農地を使つて少なくとも、今
食べるくらいは責任を持って日
本で作っていく、そうする事で
作物価格が上がって食べられな
くなっているアフリカやアジア
の貧しい国の子ども達を救う事
になる。これ以上何を言えと言
うのですか？という事を議論し
て、食事中でも喧嘩腰でやった
こともありました。そういう話
をすると、だいたいの方は、そ
れはそうだと。「日本はこれ以
上農業はしなくていい」とか、
「オーストラリアが作るから君
たちはこれを買えばいい」とか。
このような議論は乱暴だと大体
の人はわかってくれるように
思っています。私は、秋田は本

当に米所で有名な地域ですが、
皆さんが米・大豆・小麦等々の
農産物を、今後とも自信を持っ
て作っていたできるように国内
政策においても、国交交渉にお
いても一生懸命頑張っていきた
いなど改めて思いました。この
ように、最後に感想を述べて終
わりしたいと思います。

●平野 氏

大変貴重なお話ありがとうございました。

語り部フォーラムでは、皆様
から今日のテーマであります
「自然との共生」、それに纏わ
る色々なお話や取り組みにつ
いて伺いして参りました。自然
との共生という精神は、農村の
営みや生活において私達が無意
識のうちに培ってきたもので、
農村に昔から受け継がれてきた
精神だと思えます。そして県や
市や地元の方々のそうした精
神が育まれる農業農村の大
切さを再認識され、苦労や努力
を後世に受け継いでいこうとさ
れていることを、今日の語り部
交流会で改めて知って、感心さ
せられました。語り部交流会が、
多くの人が農業農村の大切さ
を見つめ直す機会になり、地域
の取り組みに理解と協力が得ら
れる一つのきっかけになれば大
変嬉しい事と思います。

お時間となつてしまいました

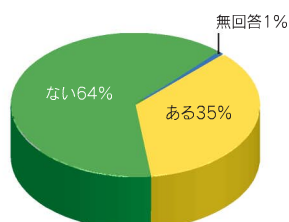


ので、ここで語り部フォーラム
を開きたいと思えます。そして
私自身、既にスーパードに並び始
めている秋田のお米を食べる事
をとても楽しみにしている毎日
であることを伝えて終わりに
したいと思えます。壇上の皆
様、そして会場の皆様ご協力あ
りがとうございました。

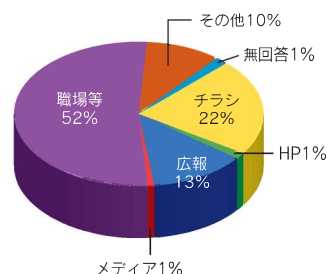


「2012 語り部交流会 in あきた」 アンケート結果

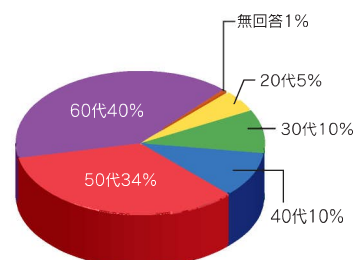
Q.今回のようなお話をこれまでに聞いたことがありますか？



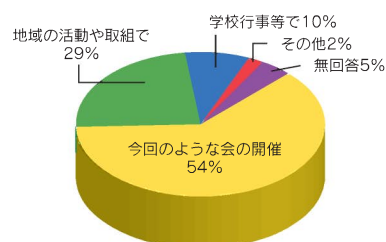
Q.今回の語り部交流会の開催を何で知りましたか？



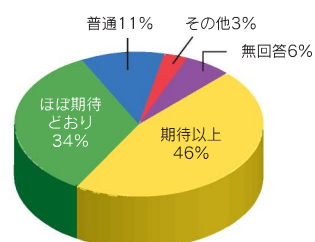
Q.参加者年齢



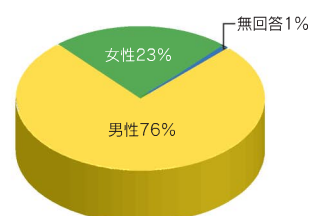
Q.今後、このような語りの会を行う場合、どのような方法で語り継いでいくべきだと思いますか？
(複数回答可)



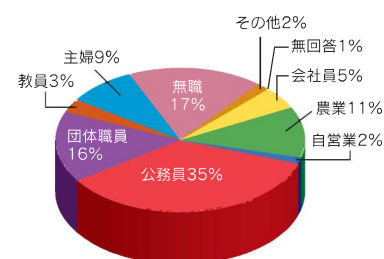
Q.今回の語り部交流会の内容はどうでしたか？



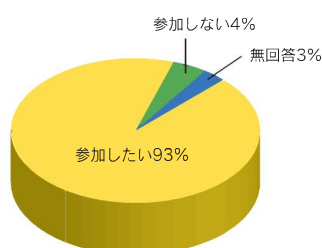
Q.参加者性別



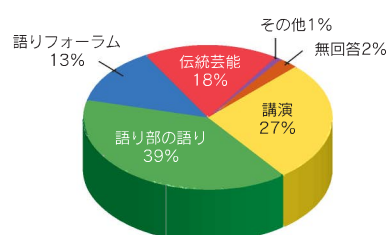
Q.参加者職業



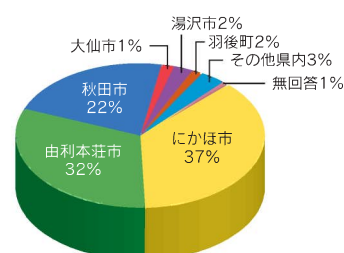
Q.今後、同様の語り部交流会があつたら参加したいと思いますか？



Q.今回の語り部交流会で興味を引いた内容がありましたか？



Q.参加者住所



あなたの声が“原動力”！ 一緒に活動に参加しませんか。

【食 料】

我が国の食料自給率は40%、もし輸入農産物がなかったら…。
食料自給率の向上は、私たち一人ひとりの課題です。



【環 境】

「水」、「土」、「里」は私たちが生きるために必要です。
今、安全・安心なものはどれですか？



【ふるさと】

緑豊かな田園、心の豊かさと安らぎ、そして人間らしさ…。
あなたは、子供たちに何を伝えますか。



「あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」は、安全な食料の確保のため、環境に優しい社会の創造のため、そして緑豊かなふるさとを子供たちに引き継ぐため、みんなで考え、発言し、行動する組織です。一人ひとりの力が活動の原動力です。みなさんの参加をお待ちしております。

地球人会議の活動内容

- ①シンポジウムやセミナー等の開催と参加
- ②パンフレットや情報誌等の発行
- ③アンケート調査等による会員との意見交換
- ④インターネット等を活用した会員との情報交換

感想をお聞かせください。

「大地の恵み」は、皆さんの声を反映した情報誌にしたいと考えています。
皆さんのご意見・ご感想をお待ちしております。

①「大地の恵み」の内容に対する意見・感想 ②地球人会議の活動に関する意見・感想

■ 水土里ネット秋田内 地球人会議事務局 TEL 018-888-2742 FAX 018-888-2834 E-mail: chikyu@akidoren.com

「大地の恵み」は地球人会議発行の情報誌です。
地球人会議の会員や公的な機関および多くの方が集う施設等で、
回読誌としてご利用いただければ幸いです。



(シンボルマークについて)

緑豊かな地球を守り、未来へ手渡したいという地球人会議の願いを象徴しています。
緑の地球をシンボリックに表し、芽生えた新芽は、会員一人一人の地球に対する優しい思いやりの心を表現しています。